

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	総合施設として、井手町民の方々には認識されているが、グループホーム単独の認識が、まだまだ浅いと感じている。地域の行事や、買物、散歩などを通じて社会参加が継続できるように援助している	現在も行っているが、研修会にて地域の方々に認知症の理解を深めていただくこと。御利用者が行事や買い物への参加にて、馴染みの生活場所に行く機会を増やして行きたい
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	認知症の進行と共に他者との関わりの働きかけができにくくなってこられ、孤立感を感じられることも多い。職員と共に安心して過ごせる場所、楽しみの持てる生活を送っていただけるように援助している。	本人に(これからどのように生活したいのか)との聞き取りをじっくり行い、満足のいく生活を探す。また家族様との連携を増やせるように行事などの充実を図る。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族様には、ホームに来ていただく機会を増やしていただけるように声掛け、連絡を取り合っている。地域には行事や買い物の際に気軽に声をかけていただけるように職員自ら積極的に挨拶などを行うようにする。	ボランティアの方々に関わっていただくことで地域の社会生活の継続を続けることが出来る。また、認知症サポーター 養成等を行うことで、地域の方々に認知症に対する理解を深めていきたい
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	法人内にサービス向上委員会があり、法人内での交流などについて検討されている。併設施設との共同での行事に参加する。散歩に出たとき近所の方との会話など利用者が積極的に声をかけて話せる体制がある。	ボランティアの方々が、積極的に活動していただくことでもっと身近に感じていただく
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ふれあい福祉祭り、町文化祭、小学校の運動会、定期的な保育園の来所など、出かけたり来て頂いたり、積極的な交流がある	○ 地域の傾聴ボランティアの方々に来所していただき、御利用者が会話を楽しんでいただくことを検討している

グループホームいでの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センターと連携し認知症サポーター要請研修を行っている。法人内での居宅支援事業所でミニデイの開催を行っている。</p>	○	<p>今後も認知症サポーター養成をしていく。また、ミニデイに参加していただき、高齢者の閉じこもりを防ぐ働きを行っていく</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価表を各自検討してもらい、新しい問題点の掘り出し、気づきを行う。ミーティングにより改善方法などの検討を行う</p>	○	<p>今年度の目標の決定を行い何時どのように実現するか話し合う</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、利用者の状態報告を行う事で、ケア内容の確認を行う。また、地域の独居者の生活状態や、認知症の方々の生活状態の情報交換ができています</p>		<p>行政、老人会、家族などで行っているが、商店街の参加を増やしたいと考えている。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>包括センターとの連携は多く持っている。以前包括のサービスを受けておられた方の、今後の利用に向けての情報交換を行っている</p>		<p>自治体、老人会、家族などで行っているが、商店街の参加を増やしたいと考えている。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部研修に参加した職員からの報告で学習する機会を持つ。</p>		<p>現在対象となる利用者はいないが、今後も学習していきたい</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修に参加し、現在自分たちの行っているケアが間違いが無いか、随時検討しあっている</p>		

グループホームいでの里

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>面接時から説明し、御利用者の方々の不安を取り除け納得して利用開始していただけるようにしている。</p> <p>契約解除時には、利用者が利用できない理由についての説明、理解を互いに話し合いを重ねた上で解除に至っている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約時に苦情受付の説明を行っている。また、玄関に意見箱の設置を行う。しかし、直接ご家族や、御利用者様から伺うことが多い。</p>	<p>「ご利用者が安心して過ごせるためには、」と家族様も交えてくり返し検討し、日々のケアに改善することは無いか、要望は無いか、施設側からの要望は無いかなど、情報の共有をしている。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時に状態報告、ケース記録の開示を行っている。</p> <p>ケアプランの更新を3ヶ月ごとに行っている。</p> <p>また、ありがとう通信にて、日頃の様子を写真を掲載し渡している</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>掲示板での開示を行う。また、ありがとう通信にて知らせる。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期会議(月1回)を開く。また、申し送りノートでの情報共有をおこなう。問題が起きれば、その場でのショートミーティングにて検討している</p> <p>管理会議の記録を申し送りノートにて開示し法人全体の動きも理解してもらうようにしている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>受診や、外出にあわせて、職員の勤務人数を調整したりしている。また、急な状態においては、随時対応できるように職員に理解してもらっている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動に対しては、1ヶ月の猶予を持って、利用者を受け入れてもらえるようにしている。</p>	<p>3月末で1名の退職者があり、そのため2月初旬から特養より1名の異動職員を向かえ、ケアに不足が起らないように指導してきた</p>

グループホームいでの里

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修に参加できるように調整したり、職員間で情報交換を行う。 テレビ、新聞、本などの情報も共有し、そのことについて話し合う機会がある。</p>	<p>○</p> <p>研修に参加して、その内容の中から、自分で試してみたいことを発表し皆と一緒にケアの実践していきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内事業所の職員間の交流は盛んに行えている</p>	<p>違う施設との交流については、検討中である。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>法人内の親睦会があり、食事会などが開かれている。個々の職員とは面談などで聞き取りしたりして悩み事の軽減を図っている。職員間の関係は良好であり、気軽に話し合える関係づくりができています</p>	<p>施設長などに、積極的に施設内を見回ってもらったり、各部署ごとの様子を知ってもらうことで、職員間との交流が持て、要求なども聞き取ってもらいやすくなると思われる。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>担当制をとることで、その方のケアを向上するために日々考えることが出来、それをサポートすることで、互いが刺激し合える関係が出来ている</p>	<p>○</p> <p>担当者の意識をもっと明確化しその方の生活を支援することにやりがいを持てるようにしていきたい。 職員の心得を作成し、毎日1項目ずつ読み上げ自分の仕事に対する意識を統一していきたい。</p>
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用前に同法人内の施設利用されている場合は、グループホームに遊びに来ていただいたりする。利用面接時、在宅にて本人に出来るだけ話を聞けるようにする。住んでおられた状況を情報収集し、入居後の、混乱解決のヒントをつかむようにしている。</p>	<p>他事業所利用者の入居があれば、その方の利用されていたケアマネージャーとの連携も必要と思われる</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用面接時、在宅にて本人と介護者と共に出来るだけ話を聞けるようにする。住んでおられた状況を情報収集し、入居後も、情報の収集により混乱解決のヒントをつかむようにしている。また、入居後の家族様の関わりを途切れさせない為の協力依頼も行う</p>	<p>入居前から電話等により、介護相談などをいつでも受けられるように、職員全員が幅広い知識を得る必要がある。</p>

グループホームいでの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネとも連携し、グループホームの入居前よりショートステイを利用を促して、少しでも慣れていただけるようにする		ショートステイ利用者の利用時の情報を受診時にドクターに伝わるように、情報提供書を作成し診療につなげた。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホームに遊びに来ていただくように勧めたりして、少しでも馴染みの関係を作るようにしている。		本入所に至るまでに、ショートステイの利用も積極的に行っている。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理を一緒にしたり、日常のちょっとした用事にも積極的に声を掛け、共に過ごすようにしている。 料理などの味付けを教えていただくことが多い。	○	個々の思い等をいつでも書き留められ、ケアプランに反映できるように、心のシートの利用を行っている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月夕食会などを行い、家族が気軽に過ごせ、本人が家族と共に過ごす喜びを持っていただけるようにしている。	○	施設での生活が長く続くと、家族がどう関わればいいのか分からなくなることが多いようである。 どう関わってもらいたいのか、どう関わるかできるかを家族と共に話し合い、ケアに生かして行きたい 何もしなくても、傍に居るだけで良いと思えるような関係づくりを行って行きたい
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	夕食会や、外出、受診などの同行や、外泊を積極的に行っていただけではない。 ケアプランを3ヶ月に1回交付できるようにし、家族からの要望を聞き取り、本人の思いを届けられるようにしている。	○	面会などに積極的に来て頂けない方などには、いかにして本人との関係づくりを構築していくか、まだまだ模索が必要である
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や、親戚の方々への手紙や葉書を書いていただく。 居室内で以前自宅に居た時の様に茶を振舞えるように準備したりしている。		社協のボランティアグループの方々の関わりを開始したところである。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	話しやすい人同士で過ごせるように席を考えたりする。 得意なことを他者に披露する事で、褒めあい認められる関係づくりに努めている。		

グループホームいでの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された方々には、入院継続や特養入居になった方々がおられる。面会などに伺い、情報の交換をすることもある。		グループホームで生活していただける限りできるだけのことを行っているつもりであるが、家族の希望で特養に入居されたり、医療の必要性が高くどうしても生活が続けられないことがある。在宅に帰られた方は現在のところおられない。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの会話の中から、したいこと、思いを汲み取れるようにコミュニケーションの充実を図る。心のシートを活用して、出来ること、出来ないこと、出来ないことについては代替が無いかを検討するようにしている。	○	職員のコミュニケーション力の向上が必要不可欠であり、本人の思いを聞き取る、感じ取るが必要である。今後も研修などを受けていく
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前に、面接での聞き取りや、センター方式の記入により家族様からの情報を出来るだけ集めるようにしている。また、日常の会話で聞き取れたことも書き加えるようにしている。		新たに、センター方式の記入更新を行っているところである。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケア記録を日中、夜間に分けて詳しく記入することで、1日の様子を把握するようにしている。		日々、変化する心の揺らぎを、職員がどれだけ把握しているか、対処方法にどのようなかわりを行っているかを、職員間で共有できるように、申し送り時などもっとうまく使える方法は無いか検討中である。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を活用しカンファレンスにて検討している。プランには上げられなかったことも、気が付いたときに書き残し、出来るだけ本人の思いを汲み取れるようなケアを行う。	○	家族様にも心のシートを記入していただきたい。家族様がどのように関わっていけばよいかもいっしょに考えたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の記録、1か月ごとのモニタリング、総合評価などを行い、カンファレンスで検討している。改善必要なことなどはその場に応じて判断している。家族様には面会時などに情報交換を随時行えるようにしている。	○	今回モニタリングのやり方を、検討した。

グループホームいでの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録や、モニタリングでの検討を行う。担当制をとることで、ワーカーがその方をより深く観察し、必要に応じて代替のケア、新しいニーズなどそのたびに組み入れていけるようにしている	○	誰が見ても解る、日々のケアに意識付けを行えるように表を作ることにした
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	総合施設でありデイサービスや、特養に知り合いの方もおられ、散歩途中に会って話すことが出来る。また、他事業所の行事などにも積極的に参加し、グループホームだけに留まらないケアを心がけている。		複合施設として互いに関係しあえ、利用者が利用するセッションが変わっても、なじみの職員と触れ合え、混乱が少ない
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアに関わっていただき、話をしたりすることで、地域の方々との交流が持てる。近くの交流センターなどに出向くこともできる		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他事業所の行事などに積極的に招待してもらい、他者との触れ合う機会も多い		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括センターとの連携は多く持っている。以前包括のサービスを受けておられた方や、今後の利用に向けての情報交換を行っている		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診の際の同行にて、情報の共有を行ったり、同行できないときには情報提供書を作り家族に託している		医療連携加算の取れる体制が出来ておらず、日々の体調管理が不十分なこともあると思われる。看護師の配置など検討する課題は多い

グループホームいでの里

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	医療連携加算の取れる体制が出来ておらず、日々の体調管理が不十分なこともあると思われる。看護師の配置など検討する課題は多い
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		入院中などに面会に行くが、家族様との会えず情報交換がうまくいかないこともあり、退院指導時に相談することもある。家族の意向や、本人の思いをもっと、幅広く聞き早期退院に向けての支援が必要である。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	ターミナルケアに向けての職員の教育や、看護体制の整備が必要である。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	ターミナルケアに向けての職員の教育や、看護体制の整備が必要である。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		併設の特養に入所された方は、その方が落ち着いて生活出来るように面会に行く機会を作ったり、情報の共有を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々に合わせて入浴など個別の対応を取り、プライバシーの保護に努める	職員間で、声掛けの仕方など、気が付いたことを言い合えるようにしている。しかし、何気ない言葉が、その方にとって傷つくこともあるため、今後も職員間で注意し合えるような心がけが必要である。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	出来るだけ本人の思いをプランに組み込めるようにしている。 普段から聞き取ったことを拾い上げられて、実現に向けて家族様に相談したり実現に向けての対応を検討している。	○ プランに盛り込む際、本人が目標を持てるようなことを盛り込みたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方が楽しんでやれること、その方にスポットのあたるケアを提供している。(○○さん、すごいねえ)と気軽に誉めあえる関係づくりを行う	○ プランを毎日のケアにどのように活かしていくか、本人がどのように感じているかをもっと細かく観察していく必要有り
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問理容サービスを使い、好みのヘアスタイルにしていだけるサービスがある。 また、家族様と外出の機会を作り、行きつけの美容室にて整える方も居られる	毛染めの希望もあるが、施設では行えきれないため、家族様の支援を必要としている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の得意な方が居られ、ほぼ毎日、台所に立ってくださる。 また、他の方も「自分が出れることは」と盛り付けなどに積極的に関わってくださっている。	献立をきめる際、どうしても職員が優先して決めてしまっている所がある。実物を見せて「どっちが食べたい」など、日ご自分の気持ちをうまく表現できない方にも関わっていただけるように、絵を見ながらや広告を使つてのメニューづくりを行っていきたい
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物などは自由に選んでいただけるようにしている。また、食料品買い物の際、おやつなどを利用者本人が食べたいものを選んでくださることも多い。	現在は、タバコや、お酒を楽しみたいと思われる方が居られないが、以前は、タバコを吸っていらっしゃる方も居られた。希望に応じて対応できるようにしていきたい

グループホームいでの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄介助の必要な方には、排泄チェック表を活用し、パターンを把握し誘導などを行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1回の予定で入浴していただけるようにしている。希望があれば毎日の入浴も可能である。楽しみの一つである入浴を、気兼ねなく入っていただけるようにしている		職員と共に入浴することも、御利用者の方には、安心して楽しく入浴することにもなる。出来る限り本人の希望に沿ったケアを提供したい
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一応、消灯時間(20時)になっているが、自室では自由に過ごしていただくことが出来る。また、夜間眠りにくく、朝起き難い方については、その方の生活パターンを優先し、起床促しなどの誘導を柔軟に対応できるようにしている。		どうしても居室にこもりがちになり、日中臥床時間の多い方が居られる。昼夜逆転にならないようにケアの検討が必要であるが、本人の希望もあり、なかなか活気良く昼間を過ごすことが出来ていない。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫や、園芸、歌を歌うことなど、その方に応じた得意なことを、継続できるように、色々な角度から観察し、共に行うことで、自信を無くすことなく継続できるようにしている。	○	つい明日にしよう、今度にしよう先延ばしにしてしまいやすい。「今出来ることを今行う。」柔軟な体制づくりが必要である 職員が本人の思いを引き出し、聞き取ることが出来るコミュニケーション力を上げていく必要がある
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でおこずかいの管理をされている方も居られる。外出時に買いたい物を買うことが出来る。	○	仏様の花を買うなど、自分で目的を持った買い物が出来るように支援していきたい
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や、散歩などその方の希望に出来るだけ添えるようにしている。	○	閉じこもりがちの方が出かけたくなるような働きかけや、ニーズの聞きだしなど、もっと積極的に関わる必要がある。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	墓参りがしたい、毛染めに行きたいなど、本人の希望を聞き出し、家族様に関わっていただけることをお願いしている。	○	入居生活が長くなると、どうしても家族との関わりが希薄になりがちであり、家族がどのように関わったら良いかわからなくなっていることもある。個人のニーズに「こんな風に関わってほしい」と要望することも必要である

グループホームいでの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様に宛てた手紙を書いたり、返事をもらうことを楽しみにされている方が居られる。 また、時間を区切らずに家族様からの電話を受け付ける。	○	家族様も理解があり、葉書の宛名書きを教えてくださいたり、一緒にひ孫様に宛てて手紙を書いたりすることを、面会時にして下さったりしている。 今後も継続して生きたい
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	消灯時間外の面会なども、受けることが出来る。居室やホールで気軽に話してもらえるように、職員も積極的に話し掛けるなどして関係づくりを行っている。	○	自室で自宅に居たときと同じように、お茶を振舞って来客を迎えることをされている方も居られる。 今後も居室を自分の家として使っていただける工夫を考えて行きたい
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。転倒の危険性のある方には、ベッドサイドにセンサーマットを配置させていただいているが、これも安全確保の上とはいえ身体拘束の一環であることは周知している。また、家族様にも周知させていただいている		言葉により、「ここに座っていてください。」「ちょっと待っていてください」など、本人の行動を制御する声かけについても、職員間で十分に話し合い、言葉での拘束にならないように随時注意し合えるようにしていきたい
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵をかけることは無い。玄関については、自動ドアであること、ドアの直ぐ横が階段であること。施設の横が竹藪などで安全面に障害があることなど、入所時から、本人や家族に説明し納得していただいている。		職員間で話し合いを行い、鍵をかけないことについてもっと話し合う必要がある
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	転倒の危険性のある方については、ナースコールを押して知らせていただくこと。センサーマットを利用して反応したら直ぐに関われるようにすることなどで、転倒されないように見守っている。 また、他の方についても、日中の様子確認にて、移動時の手つなぎ歩行や、夜間の巡視の強化を行うようにしている。		法人内に安全対策委員会があり、ヒヤリハット報告について毎月検討し、「繰り返さないように」話し合っている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	何もかも無くしてしまうのではなく、必要などころにあたりまえに置いてある状態を作り、そのことを理解できなくなって来ている利用者については、随時倉庫で預かりを行ったり、声かけにより危険回避を行っている。		本人の状態を細かく観察することで、危険をいち早く察知できるようにして随時対応して行きたい
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒予防のためベッドサイドにセンサーマットの利用を行っている。 配薬間違いの無いように、確認しあったり、服薬後、薬を飲みきれているかの確認のため、口腔ケア時に見るようにしている。		法人内で避難訓練を行っている

グループホームいでの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急搬送時の対応など、夜間職員が一人でも慌てず間違わずに行えるように、抜き打ちで訓練したりする。消防署と連携し避難訓練や、心配蘇生法を学ぶ講習会も行う。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練を行う。		地域の方々の協力を得るために、法人として検討している。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	その方の状態を常時観察し、申し送り時にリスクについて話し合っている。ケアプランに盛り込んで、家族と共にリスクについては周知し合っている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日朝バイタルチェックを行う。脱水や、便秘など変化に敏感に観察できるように気をつけている。特養医務の協力を得ることも出来る。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	夜勤者が次の日の配薬を行い、服薬時には、職員間で確認しあうようにしている。薬の内容については、用法、副作用について確認できるようにケース記録内に処方内容をわかる用紙を挟み込む。内服内容が変わったときは、申し送り時に伝達している。		本人の状態により、精神科などの内服について、「本当にその薬が必要なのか、代わりに対応する可能性は無いのか」を検討し、ドクターとの連携をもっと蜜にする必要があると思われる また、薬に対する知識、そのお薬を飲むことにより考えられる副作用についても、職員間で学習する機会が必要である
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表の活用にて便秘していないかの把握を行う。出来るだけ薬に頼らないように水分摂取の促しや、体を動かすことなど対応している		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔ケアの徹底を行う。訪問歯科に受ける。		

グループホームいでの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や量などその方に応じた対応を取れるようにしている。 食事摂取量の確認も毎食後行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策委員を中心に法人全体での感染予防に努めている。マニュアルなどを作成し、対応の周知を行う		インフルエンザの流行時、委員会がすばやく話し合い、法人内での集団感染の予防体制が引かれ、今年度は感染を最小限に抑えられた。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫や食品庫の清潔保持を随時夜勤帯などで行うようにしている。調理器具などは、ハイターにより消毒、食洗機にて熱湯消毒を行うように取り決めがある。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設が2階部分にあり、1階部分をエントランス及び、2階部分の自動ドア前を玄関と考える。奥まったところにあるため、看板などの作成しているが、近隣の方々が気軽に訪れることは出来にくい。併設の特養の玄関に訪れてきていただけたら、随時案内できるようになっている。		自動ドア前を玄関と考え、もっとなじめる環境づくりを改善したい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テラスには自由に出入りが出来、散歩や気分転換に使っていただけている。	○	お風呂場に緑の植物を置いたり、玄関に入ったホールに椅子などを置いて面会者とゆったりくつろげる空間づくりを行いたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファにてゆっくりと過ごされる利用者が居られる。 自分で育てた蘭の花を飾り、日々の世話を楽しんでおられる	○	玄関ホールの居場所づくりを行うことで、もっと違ったゆとりある空間づくりが提供できるのではないかと。

グループホームいでの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要な方には、プランの中に盛り込んで、家族様と共に自分の家を思い出し、自分の馴染みのもので安心できる空間づくりを行えるようにしている。		写真や、絵などを飾ったりして、もっと個人個人の個性のある部屋づくりを検討していきたい
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	暖房、冷房の温度管理には気を使い、冬場の乾燥には加湿器を利用している。換気も寒いと訴える方のために、行えにくいですが、少し離れた場所の窓を開けるなどの工夫をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒の危険性が高い方の居室には、その方に応じた手すりをつけたり、たんすの置き方を工夫したりしている。以前利用されていた方には、ベッドをのけて、畳を敷き自宅に近い状態を作って対応した。	○	ホール内も手すりに変わるものや椅子などを配置できるように検討が必要である
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや、居室の場所がわかるように、張り紙をしたり、さりげない誘導で、失敗を防ぐようにしている。また、居室を間違えたりされる方については、移動時の見守り声かけを行い、他者とのトラブル回避に努める		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラスの出入りは自由に行え、プランターでの花を育てたりしている。散歩などで出かけることも多いが、併設のデイや特養などを散歩したり雨の日でも行うことが出来る。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホームいでの里

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

クラブ活動などを通じて、ケアハウスや特養の利用者との交流もあり、ユニットに留まることの無いケアを行うようにしている。

家族様との関係づくりをケアの中に取り入れ、毎月の夕食会など、気兼ねなく参加してもらえる行事を計画したり、外出や手紙などの家族と本人の自主的な交流を援助するようにしている。

町内に1施設しかないことも有り、地域の方々にいかに馴染んでもらえるかを念頭におき、町の主催行事に積極的に参加したり、認知症サポーター養成講座を包括支援センターと協力しながら行い、認知症を理解していただける方を増やす努力を行う。